

指導方法等の改善計画について〔国語科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 62.4%, 県 63.7%)

対県比

97.6%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 76.6 %
 全国 72.9 %
 県 78.4 %

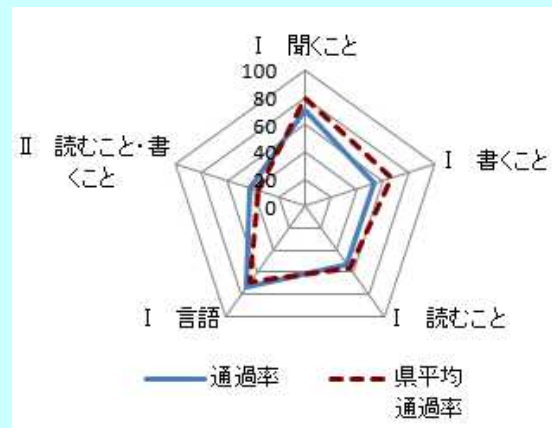
B問題

本校 59.1 %
 全国 57.8 %
 県 60.5 %

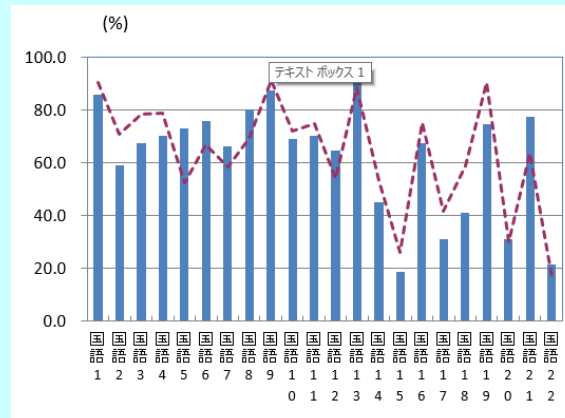
本年度の結果について

主として基礎基本定着状況調査について、国語科では、タイプ1の平均通過率は68.0%で60%を超えており、基礎的基本的内容は概ね定着されていると考えられる。タイプ2の平均通過率は36.7%で、60%を大きく下回っており、教科で復習した知識技能を日常生活などの場面に活用する力に課題があると考えられる。

領域別平均通過率



数回テストの平均通過率



来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

103 %

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(3-7) (18.3%)

中心となる語や文を文章全体から把握し、指定された文章の中に正しく書くことに課題がある。文章全体の中からキーワードを適切に捉える力が必要である。

【課題2】(5-1 情報) (31.0%)

昨年と同様に、複数の情報から必要な物を取り出し、目的に応じて説明することに課題がある。紹介する相手や目的に応じて、自分の考えを明確にする必要がある。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(3-(3)) (56.0%)

文章を読み、目的に応じて文章の内容を的確に把握した上で自分の考えを記述することに課題がある。また、必要な条件を満たすことなく回答する傾向がある。

【課題2】(2-2-1) (46.7%)

問題のパターンに慣れていないことが課題として1つ挙げられる。また、図表やグラフなどを読み、複数の情報から分かったことを的確に書くことに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(向上値20%) 実施後数値()%

要旨を捉える力をつけるために、本文を指定された字数でまとめる記述問題を実施する。具体的には、一問一答のテストだけでなく、キーワードを使った長文の記述問題を実施する。(例: 作者の最も言いたかったことを「○○」の言葉を使って、○○字以内でまとめましょう。)

【課題2】目標値(向上値20%) 実施後数値()%

複数の資料を提示し、目的に合った文章を作成する学習を実施する。(例: 環境問題についての課題と解決策について4枚の資料の中から2枚選び、文章を作成しましょう。)

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(70%) 実施後数値()%

複数の条件を設定するなど、設問の意図を把握した上で回答するような記述問題を繰り返し出題し、記述能力を高める。お互いに書いたものを発表し合い、条件を満たしているかどうかに着目して助言し合う活動を取り入れる。(例: 委員会紹介の文章を発表しましょう。また、友達の文章を読んでより分かりやすくなるように、アドバイスをしましょう。)

【課題2】目標値(65%) 実施後数値()%

1つのグラフを取り上げて、全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習、複数の図表やグラフを比較したり関係付けたりする学習を行う。さらに、必要な数値を使って説明する場を設定する。(例: 次のグラフから結果と課題が分かるように、数値を使って文章を考えましょう。)

※今後の改善計画は別紙

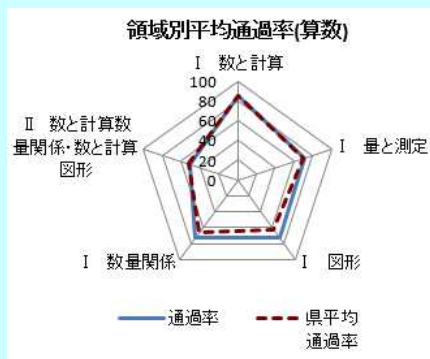
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.8%, 県 69.4%)

対県比 102%

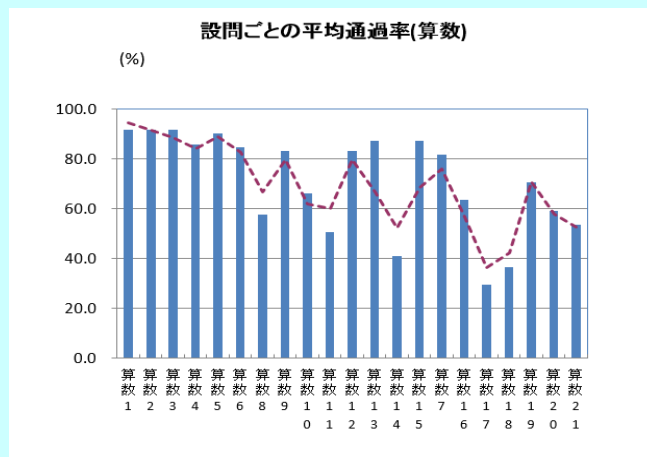
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題	B問題
本校 80.3%	本校 46.2%
全国 77.6%	全国 47.2%
県 79.7%	県 49.5%

主としての基礎基本定着状況調査において算数科では、本校の通過率は70.8%で県の通過率を上回っており、全体的には概ね定着が図られている。しかし、タイプIIは49.9%で県の通過率を2.1ポイント下回った。また、昨年度より課題であった「量と測定」は、今年度は0.6ポイント上回った。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 100%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(10- (1)) (通過率 29.6%)

目的に応じて計算結果の見積もりをする際に、四捨五入、切り捨て、切り上げの方法から、状況に応じて適切な方法を理解し、判断することに課題がある。四捨五入をしている児童が67.6%

【課題2】(7) (通過率 40.8%)

ひし形を作図する際に用いられている図形の特徴について理解が不十分である。対角線が垂直に交わっている性質を利用して作図していると回答した児童が29.6%

全国学力・学習状況調査

【課題1】(B5 (1)) (通過率 4.0%)

示された除法の式を、並べてできた形と関連付けて考え、角の大きさを基に式の意味の説明を記述することに課題がある。無解答は5.3%であるが、一方で解答類型9(正答の条件を一つも満たしていない)の児童が34.7%。

【課題2】(B2 (3)) (通過率 13.3%)

示された式の中の数値の意味を、他の数値や演算と関連付けて解釈し、それを言葉や数を用いて記述することに課題がある。

※今後の改善計画は別紙

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(80%) 実施後数値(%)

見積もりの方法には、「四捨五入」「切り捨て」「切り上げ」の3種類があり、多めに考えて見積もる場合、少なめに考えて見積もる場合について、身近な問題場面を取り上げて適切な方法を選択する学習を行う。その中で、見積もりの方法を使い分けて概数を求める利便性について実感させ理解を図る。このことについては、校内授業研究を行うことなどを通じて重点的に取り組む。

【課題2】目標値(60%) 実施後数値(%)

多様な図形を作図方法について、図形のどの特徴を利用しているかについて明確にしながら行う。具体物を用いて実際に計測したり、作図方法を友達に説明し合ったりすること、また、なぜその方法で作図ができるかということを説明させたりする活動を通して、実感を伴った理解を深める場を設ける。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(50%) 実施後数値(%)

図形の特徴を基に、図や式を用いて問題を解決し、児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を行う。理解が十分でない児童に対しては、具体物を使って実際に図形の観察や構成を確認し、理解を図る。

【課題2】目標値(50%) 実施後数値(%)

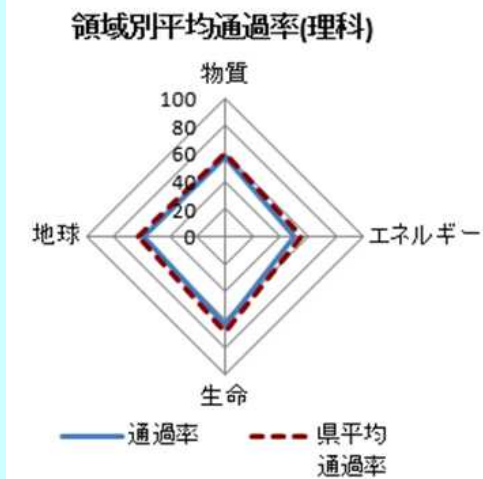
日常生活の事象を数的に捉え、場面を適切な式に表したり、式の意味を具体的な事象と関連付けたりすることで問題を解決させる学習を行う。また、式を読む活動を学習の中に多く取り入れ、式の数値はどこから導き出されたものなのかを考える場面を設ける。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 57.1%, 県 62.3%)

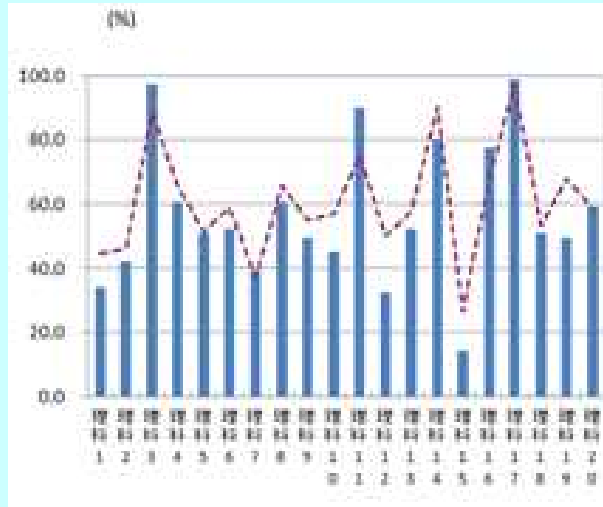
対県比 91.5 %

本年度の結果について

領域別平均通過率



設定JWSHの通過率



理科の結果において、レーダーチャート上は県平均よりやや低いものの、ある程度バランスは取れているといえよう。しかし、設問ごとに詳細に検討すると、物質のⅠ、生命のⅡ、地球のⅡにおいて特徴的な課題が見られた。具体的には、ものの重さのはかり方や温度による水の三体変化。昆虫と周辺の環境、太陽の動きと影の関係、方位磁針の正しい使い方である。誤答の傾向から、2つの課題が見られる。1つ目は、理解したことに対する論理的記述能力の低さである。特にそれは物質のⅠ「水の三体変化」の記述において顕著で、分かってはいるものの正確に記述できていない児童が多くみられた。二つ目は、自然の事物事象に対する科学的思考力の低さである。現象に対し、なぜそうなるのか、あるいはその結果どうなるのかといった論理的思考ができていない児童が多くみられる。その原因として、物質のⅠ物の重さのはかり方や方位磁針の使い方、昆虫と周辺の環境にみられるように、実際に明確な意図や目的意識をもって観察・実験十分に実施できていないことが挙げられる。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】 (7-(1)) (14.1%) ※対県比: 53.4% 「太陽の動きと影の関係」
 理科に限らず、その他の教科においても課題となっているが、問題を理解したうえで、解を導き出す力に課題がある。情報を的確に読み取り、既知の概念を利用し論述するという力につまづきが見られる。
【課題2】 (8-(1)) (49.3%) ※対県比 72.0% 「方位磁針の使い方」
 観察・実験の技能において課題が見られる。実際に子供達が必然性を感じ、明確な意図をもって観察・実験に取り組む授業が少ないことが要因として考えられる。児童が探究者として課題発見・課題解決できるような授業デザインを構築することが求められる。

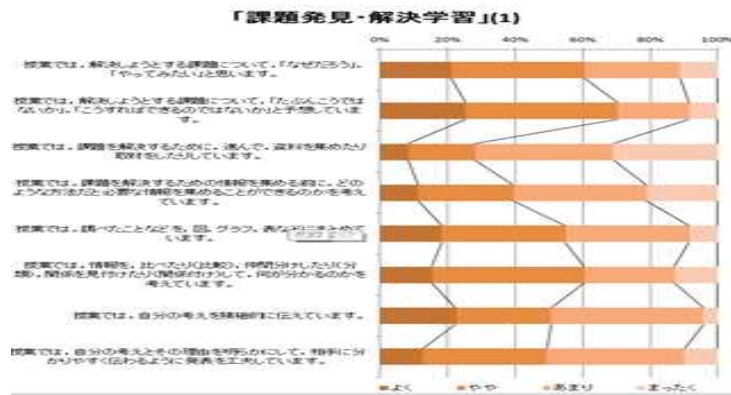
重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査
 共通項目・・・子供たち自身が発見した課題に対して、観察・実験をもとに課題解決の過程を踏ませるような問題解決的な授業展開を3~6学年で実施できるよう取り組む。
【課題1】 目標値 (向上値 20%) 実施後数値 (%)
 理解した内容を、論理的に記述することができるようにするために、毎単元テストごとに独自の記述問題を実施する。具体的には、一問一答式の単元テストだけでなく、長文で学んだことを記述できるような問題を実施する。(例: 食物が体に吸収されエネルギーとして使われるまでの流れを「消化」「消化液」「小腸」「肝臓」「血液」「心臓」の言葉を用い、70字以上100字未満で説明しましょう) 実施当初からの向上値 20%をめざす。
【課題2】 目標値 (70%) 実施後数値 (%)
 教師の演示実験だけでなく、子供達一人一人が実験にかかわれるような環境づくり及び、授業づくりを行う。理科室及び、理科準備室の整備とともに、児童を小グループに分け、できるだけ多くの児童が実験に参加できたという教師の回答を 70%以上にする。

※今後の改善計画については別紙

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

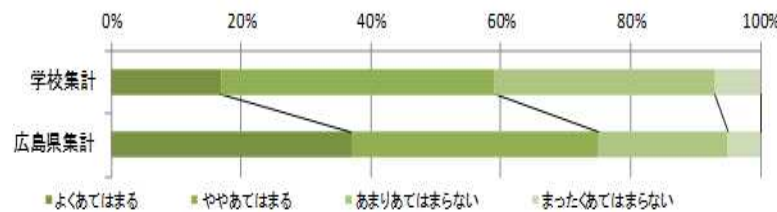
(1) 生活・学習



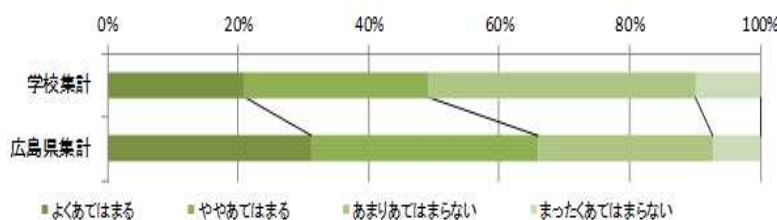
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
○問題解決場面の対話において、自分の考えを積極的に述べる児童が半数にとどまる。	○対話の活性化や深まりの見られる授業の開発を行う。具体的には、授業において葛藤場面を意図的に設定し、異なる意見が生起するよう仕組み対話を促す。	6	70%	質問紙によるアンケート	12月		

(2) 教科

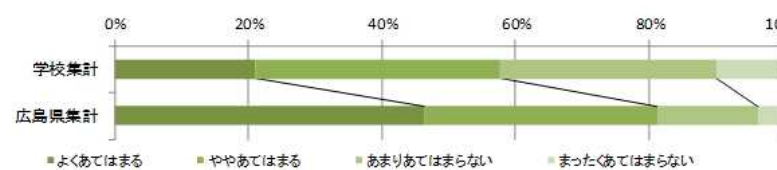
国語の授業の中では、中心となる言葉や文を見つけたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。



算数の授業では、解き方や考え方を話し合う時に理由を挙げて発表しています。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識しています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	○県平均に比べ、著しく差があった項目が左である(16.9% ※対県比45.7%)。長文の中からキーワードやキーセンテンスを抜き出す読解力に課題が見られる。	○長文読解におけるキーワードやキーセンテンスを抜き出す活動を、各教科で実施する。	6	30%	児童に対する質問紙によるアンケート	12月		
算数	○根拠をもとに、相手を納得させる論理的な対話スキルに課題がられる。(49.3% ※対県比74.6%)	○ペアトークなど、一人一人が対話をする機会を増やし、相手に自分の考えや学んだことを伝える能力を高める。	6	60%	児童に対する質問紙によるアンケート	12月		
理科	○目的を理解して、観察実験を行っている児童の値が著しく低い(21.1% ※対県比45.4%)。児童の課題もあるが、教師の授業構成に課題があると考える。	○教師の演示実験だけでなく、子供達一人一人が実験にかかわれるような環境づくり及び、授業づくりを行う。理科室及び、理科準備室の整備とともに、児童を小グループに分け、できるだけ多くの児童が実験に参加できたという教師の回答を70%以上にする。	6	70%	教師に対する質問紙によるアンケート	12月		